

『もっと老上、ずっと老上～学ぶ楽しさ 人のあたたかさ 明日への希望 をみつける学校～』

2020年度 老上小学校だより No.5(5月25日号)

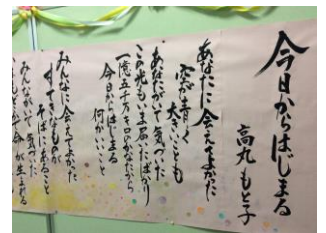
老 おいっしょやま通信

①おきなめあてにむかって ②いども つづける子 ③かんがえ 深める子 ④みとめ つなげる子 (校長 山崎 賢)

(学校だより、学年通信・ほけんだより、行事予定、下校時刻などは老上小学校HPでもご覧になれます)

間(はざま)で生きる～レジリエンスを育む視点から正義を考える～

分散登校が始まって、今日で4回目の登校です。子どもたちの体調や心理面の状況はどうでしょうか。長い休校期間に加え、活動の自粛が求められるなど、不安や不自由な思いを感じ続けていただろうと思います。今回、短い時間ですが学校に来ることで、少しでも不安が解消されたり、前向きな気持ちが持てるようになったりできるよう期待しています。



しかし、登校が開始されたことで新たな不安を感じたり、全てが普段通りに進むわけではないことで何となく意欲がなくなったりするようなことも出てくるかもしれません。また、マスコミ等でよく言われるように、感染防止に対する意識の緩みもまた心配されるところです。学校でも、そのようなことも想定しながら、6月からの再開に向けて少しずつ心と体を整えていけるように取り組んでいきたいと思えます。



さて、ニュース等を見ていると、最近特に問題とされているのが、国や県の呼びかけに応じない人やウィルス感染者に対する批判や非難、また差別や排除などの過激な言動です。今に始まったことではないのですが、国の責任ある立場の人が、相手やある集団について攻撃的な批判を繰り返す姿を見れば、多くの人がそのような言動をとることはむしろ必然なのかもしれません。マスコミなどではたびたびそのような言動に対して批判的に取り上げたり、憤むように呼び掛けたりしていますが、同じような差別や誹謗中傷が幾度となく繰り返されています。もっとも、差別を批判しているはずのメディアの中でも、「今こそすべての日本人に問います」とか、いまだに「女性ならではの視点で開発した……」などと、何の疑問も持たずに日々発信している現状では説得力がないのは当然かもしれません。

また、多くの人が差別的な言動で誰かの責任を追及することを正当化する根拠とされるのが「正義」という言葉であり概念です。そもそも正義を持ち出すとき、「善」と「悪」がセットで使われます。私たちは子どもの時から知らず知らずに「正義の味方〇〇〇」という概念を植え付けられていきます。戦隊ヒーローものに限らず、ドラマなどでも最後は暴力で解決するという筋書きの中で、力の強いものが正義、多数の考え方こそが正義という世界観を、私たちは少なからず何の批判の意識も持たずに受け入れてきています。ですから、今回の情勢の中でも、いわゆる「正義」をバックに、特定の個人や企業などを差別的にバッシングする言動に賛同することで、自分は正しいという安心感を得ようとしているかのようには思えます。もちろん私自身も、「そうそう」という気持ちがないわけではないし、誰かがそんな言葉を発することで、自分の正義が支持されたように感じてなんとなく安心していることがあります。また、せめて差別に加担する発言はしないようにしたいと思いつつも、同調を求められればあまいに

うなずいている自分に気づく場面もたくさんあります。

しかし、自分以外の人や集団を攻撃することで物事がよくなったり、お互いの気持ちが悪くなりしたりしたことはあるのでしょうか。たとえば多数の支持を得るためのパフォーマンスとして、相手の批判や揚げ足取りばかりを行っている場面を目にすることがよくありますが、そんなとき「相手の批判ばかりしていないで、何をどうしたいか語ってほしい。」と感じている人は多いでしょう。批判や非難、差別や排除からは幸せは生まれず、残るのは無力感と人を犠牲にして成り立っている今の自分への嫌悪感だけだということを、私たちは経験上知っているからです。



正義や正しさなどというものは、その時の政治や社会の仕組みの中で、いくらでも変わります。世界を善か悪かで二分することなどできないのではないのでしょうか。いつも私たちは、「間（はざま）で生きている」のです。ただ、いま正義といわれる多数側にいることで安心をしているだけなのかもしれません。

水平社宣言で、被差別の立場におかれた人たちは、差別のおろかさや差別をされる立場の思いや憤りを伝えたあと、最後に「人間（じんかん）に光あれ」と結んでいます。今まで差別をされてきた自分たちが今度は正義だと言いたいところでしょうが、差別をする人・される人の対立の構図ではなく、多様な生き方や考え方を大事にしたいという思いを表しているようにも読み取れます。そして、そのことから、人間とは正義を盾に自分とは違う考えや生き方を否定するのではなく、多様な考え方の人と人との間で生きていくことが大事なのではないかと改めて思います。

今年大事にしたい「レジリアンス（折れない心・復元力）」を育む上でも、間（はざま）で生きる自分に気づくことや多様な考えや生き方に思いを寄せる気持ちを育てていくことが大事ではないかと思えます。正義といわれる正しさの押し付けに対して、少し立ち止まって自分の立ち位置や寛容性がどの程度なのかを考えながら社会の動きを見るというような、少しの心の余裕を持ちたいものです。

令和2年度教科書展示会御案内

目的 採択前の教科用図書教育関係者だけでなく保護者や一般の方々にも閲覧いただくことで、教科書や教科に対する理解を深めていただくことを目的としています。

期日 6月5日（金）～7月2日（木） ※日・月・祝日は休室
火・木・土 10:00～18:45
水・金 11:30～20:15

場所 アーバンデザインセンターびわこ・くさつ（UDCBK）
草津市野路1丁目13-36 西友南草津店1階

小学校・中学校・高等学校で使用されている教科書の見本が多数展示してあります。どなたでも自由に閲覧できますので、ぜひお出かけください。

なお、御来場の際には、マスクの着用と感染拡大防止の対策に御協力をお願いいたします。